

岩滝町陸上競技協会

■協会の小史

昭和 30 年、陸上競技協会設立の機運が高まった。当時、岩滝クラブは福知山市陸上競技協会を通じて陸連に登録を行っていた状況であったが、31 年春、梅田陽一、橋本純一郎、千賀明、吉田勇、足立省吾、山田智一、糸井弘志、小室住雄、一色四郎の各氏が集い、山添寛二郎氏を会長に仰ぎ設立にこぎつけた。

記念事業として北丹地方陸上競技選手権大会を開催することになったが、主催問題は熾烈な議論を戦わせた。しかし、最終的には、経済的な問題も考えて主催を町体育協会に、主管を岩滝町陸上競技協会が担当するというで決着した。後援を岩滝町及び岩滝町教育委員会、朝日新聞社等に願って 7 月末の開催を決定した。当時の京都陸上競技教会副会長平井新司氏を審判長に迎えて、盛夏の開催にこぎつけた。以前に開催したことのある京都府青年大会の経験を生かして京都府北部の町村を駆けずり回った結果であった。

その後、福知山陸協に続けと陸協あげて努力し、北丹地方駅伝競走大会等も行い、今日に至る。

北丹地方陸上競技選手権大会は、橋立中学校の一周 200m のグラウンドに毎回 300 名前後の選手が得られるに至って、福知山の三丹陸上に優るとも劣らぬ大会となった。第 25 回大会から会場としてきた橋立中学校が改築のために会場移転を行うなど困難な時期を乗り越えてきた。

この会場の橋立中学校からは、一般選手の中に混じり活躍し、全国的にランクされた選手もいる。宮崎由美子、田中完治、堀光宏君らである。

当時の選手層は、「岩滝の投擲陣」と言われたほどで、糸井弘志、一色四郎（旧姓佐々木）米華利吉氏等優秀な選手がいた。更に、これらの選手の加えて、長距離の野田川町の堀井仙二君（鐘紡全盛時代の田茂井氏の愛弟子）や同町の走り高跳樋口君の両選手を加えて三丹陸上競技選手権大会に 7 連覇の偉業を成し遂げ、岩滝陸協の黄金時代を築き、「京都北部に岩滝陸協あり」と全京都に知られるに至った。

この間、京都クラブ対抗に毎年上位入賞を果たし、昭和 32 年 4 月には京都陸上競技協会より「成績優秀」の意を以て「岩滝クラブ」表彰を受けたことは、京都北部の“スポーツの町”岩滝町の一層の誇りとするところである。

陸協設立 25 周年事業として昭和 55 年 12 月に 20 k m と 10 k m の公認ロードコースを設定することができた。

また、第 43 回京都国体に向けて小学生陸上教室を開催し、尾関和生普及部長を中心として黒田喬理事長、中垣、堀口、白須君らの継続した努力が実り一定の成果をあげた。

昭和 57 年 11 月 21 日、京都府中学校駅伝競走大会が天の橋立 20 k m コースで開催され、これを機に中学校体育連盟と岩滝陸協との間に協力関係が生まれ、翌 58 年丹後ブロック中学校陸上競技大会に審判部が支援した。

昭和 59 年 6 月 26 日、第 1 回与謝郡小学生陸上記録会の開催に向けて、当時の千賀明会長が各町の教育委員会を奔走し、理解と後援をいただき実施にこぎつけた。このことが一つの契機となり与謝・丹後の各地で陸上教室が開催されるようになった。そして、第 10 回大会から丹後各町の小学生にも呼びかけて大会規模を拡大すると共に名称を「与謝・丹後小学生陸上競技大会」と改め、途中ケ丘運動公園陸上競技場で開催することとなった。

また、「関西学生駅伝競走大会」が第 49 回大会（昭和 62 年 12 月 6 日）から久美浜～天の橋立コースで開催されることになり、岩滝、宮津、舞鶴、綾部、福知山各陸協が運営協力し、本年 60 回大会を迎える。

昭和 63 年、第 43 回京都国体では久美浜ジョギング大会の開催に向け、その準備委員として尾関和生を派遣し、成功に導くと共に京都会場にも多数の競技役員を送り国体成功に力を尽くした。

この間、与謝・丹後地方には登録クラブも会員数も多くを数えるに至り、組織運営上の課題が多くなり、協議の結果、改革に取り組むこととなった。岩滝町、岩滝町体育協会の理解と協力によって発展をしてきた岩滝陸協であったが岩滝町体育協会の傘下にあることが、さらなる発展を妨げていると判断し、平成 7 年度をもって退会することとなった。これにより、与謝・丹後地方 10 町の理解と支援をいただき、更に与謝・丹後地方の陸上競技の発展に寄与していく所存である。

【平成 10 年・岩滝町陸上競技協会会長 千賀一男】

■主要競技会の概要

北丹地方陸上競技選手権大会

この大会は昭和 31 年陸協設立と同時に第 1 回大会を橋立中学校グラウンド(1 周 200m)で開催した。戦後、陸上競技の復活を目指していた三丹陸上にあわせてそれぞれが側面援助し、協力しあいながら、北近畿一円の広い地域大会として陸上競技界の発展と底辺拡大を目的に、身近な大会として愛好者が参加できる競技会であり、合わせて公認審判員の養成錬磨の機会として開催したものである。毎年 300 人を超える選手参加を得て開催してきたが、第 32 回大会昭和 62 年をもって休止する。この間実業団はもとより高校、中学校の選手が参加して種目も男子 14 種目、女子 11 種目が行われた。平成 10 年から途中ケ丘運動公園第 4 種公認陸上競技場で公認大会として復活することになった。

北丹地方駅伝競走大会

この大会は協会設立を記念して昭和 31 年 11 月岩滝町役場前を出発・決勝として宮津市天の橋立を縦走し、世界長峠を越え中郡大宮町・与謝郡野田川町・加悦町の 5 市町を走破する 7 区間 43 km 余のコースで実施した。しかし、交通事情の変化もあり昭和 46 年第 16 回大会から日置折り返しの 5 区間 24.4 km のコースと変更し、更に平成 9 年第 43 回大会か

ら、岩滝町内と大宮町森本を周回折り返す 5 区間約 27 k m のコースに変更し、高校・一般 50 チーム程度の参加を得て開催している。

天の橋立ロードレース大会

この大会は昭和 41 年陸協創立 10 周年を記念し長距離選手の育成強化を目的として風光明媚な名勝日本三景のひとつ天の橋立を縦走する 13.8 k m としてスタートした。京都陸協元理事長大江政一氏と一緒にみぞれ降る中実測し、思い出に残るコースである。昭和 55 年公認大会の開催を熱望する中、陸連公認 10 k m、20 k m の公認種目を追加して、一般 13.8 k m とともに 600 名を超える選手を迎えるに至った。平成 9 年阿蘇海一周コースを交通事情から使用できなくなり、天の橋立往復のハーフマラソンとして衣替えし、平成 10 年第 33 回大会から公認ハーフマラソンとして実施することになっている。

与謝丹後小学生陸上競技大会

昭和 59 年与謝地方小学生陸上記録会としてスタートし、岩滝・野田川・加悦クラブの輪番で主管してきたが、平成 5 年第 10 回大会から丹後 6 町の小学生も対象に途中ケ丘運動公園で開催している。現在は、500 名を超える小学生が力と技を競うまでに発展した。

与謝郡選手権・クラブ対抗選手権大会

昭和 46 年発足した与謝郡選手権大会は途中クラブ対抗選手権大会として開催したが平成 9 年を以て中止した。

【平成 10 年・岩滝町陸上競技協会理事長 尾関和生】